

教育科学研究所通信

京都(関西)教科研例会案内 348 号

2 月号



ねこはこたつでまるくならないかな？

日時 2022 年 2 月 19 日（土）18 時半～

場所 乙訓教育会館

内容 第 331 回 2 月京都教科研例会

提起

高校教育における「公共性」を考える

- 2 月号第 1 特集を読みあう -

提起 井上 力省（事務局）

高校教育が矢継ぎ早に「改革」されようとしています。その狙い、本質について考えたいと思います。みなさんの参加をお待ちしています。

348 号目次

1	1 月例会案内		1
2	1 月例会報告の報告	吉益敏文	3
3	わたしの研究ノート・(12)	佐藤年明	7
4	教科研、これまでこれから⑩	佐藤広美	10
5	編集後記・ニュース		12

京都教育科学研究会第330回1月例会の報告

はじめに

おそくなりましたが新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。コロナの感染、第6派が「到来」したようですが、このコロナ禍で私たちは何を大切に生きていくのか、第1特集の論文から考えてみました。みなさんの問題意識からはじまりました。

提起

心とからだに向き合う教育の今
1月号第1特集をよみあう

吉益敏文（事務局）

討議

別紙参照

連絡・交流・確認事項

- 1、2月例会（2/19） 6時半～ 乙訓教育会館
2月号第1特集 高校教育 公共 提起（井上）
- 2、3月例会
3/19例会で 神代さんから提起してもらう予定です。
時間帯の検討（基本は対面で開催予定）
- 3、通信の連載企画 佐藤さんの研究ノート
○1月号から『民主主義の育て方』がスタートしました。

○教科研のこれまで、これから（執筆予定）順不同

岸本清明さん（兵庫）中尾忍さん（香川）佐藤広美さん（東京）
久保富三夫さん（兵庫）北川健次さん（滋賀）寺井治夫さん（京都）
本庄真さん（三重）

4、編集委員会報告

編集の今後の予定について報告をしました。

書評問題については経過、問題点を吉益が報告し意見交流しました。

「コロナ問題」と生命を支える共同の思想(田中孝彦論文)を中心に

提起 吉益敏文

「コロナ問題」の現在

自分自身の「コロナ」による生活の変化と研究

「感染状況」調査とその質の問題

『子ども白書』 行政の調査発表 保育者たちの発言

「コロナ感染」の長期化・複雑化 分析する調査の方法・概念を注意深く検討する大切さ

歴史的・実証的な研究の重要性

子ども、人々の生活の現実と内面の「不安」についての理解

『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ—人類とウイルスの第1次世界戦争』速水融

地域の医療実践の報告 栃木県 矢作町の医療実践

人々の生命を支える、医療従事者への注目

作家・医師 夏川草介の存在『臨床の砦』命がけの診療

簡単に言葉にできない困難と苦悩を経験している医療従事者

医療従事者からの聞き取りの研究

生命のためのグローバルな共同

ハラリの著作と発言 哲学者の発言

2020年 ハラリの『タイム』での発言

…だが、あらゆる危険は好機でもある。(略)…ウイルスが歴史の行方を決めることはない。それを決めるのは人間である。…この危機にどう対応するかを決めるのは、私たちなのだ。」

楽観的なのか。根本的、重要な問題提起として受けとめてきた。

私たちが日々を生きる具体的な地域から、実践的・思想的・研究的に追及することが重要。

「人間を取りもどそう」という重要な動きにふれる。歴史学者の研究の動き、医療従事者の実践の動き、哲学者の思索の動きを少し紹介する中で。

○感想と問題提起

ハラリなどの予測、展望を支持したいが、はたして世界はそのような方向に進んでいるのだろうか。願望と現実を直視しながら何に確信を持ち、未来に展望をもつのがとわれているのではないか。その意味で医療従事者だけでなく、対人援助に関わる、ある面でケア労働にかかわる人たちから丁寧な聞き取りや声を聴くことが大切ではないかと改めて思った。少し違う角度からではあるが便利になった ZOOM 会議でその良さと同時に道具として活用しながら、その限界や問題点を把握しないと人間としての会話やつぶやきを共有することにならないと思う。効率よく決める事務的な会議には適切だと思うが。コロナ時代の今を丁寧に分析していきたいと思った。

他の論文・実践から

吉岡論文(保育園)

保育園での実践 東大阪 園長 園行事を工夫
「子どもらしく自己を発揮し、生活できる保育のあり方」とは
本気度を示す。

東畑論文(小学校)

小学校 体育同志会の実践
コロナ禍のなか、ぼくはゲームの王子様として主役に。

佐藤論文(中学校)

中学校 歌うことを通して育つ
合唱コンクールの中で
好きとか嫌いとかの壁を乗り越える経験

村越論文(大学)

「からだ」に注目
ダンス授業 対面とオンラインでの学生の動き、表現の違い
AIにはからだがない。

神代論文(少年少女センター)

少年少女センター 遊びの工夫
遊びを通しておとなも育ち直す
新たな子ども時代のために

討議の補足として

一人の研究者の論文に対して5本の実践論文が第1特集は掲載されている。
コロナ禍で失ったものは多いが、その中で様々な実践が工夫され取り組まれている。
それらの対人援助職の取り組みから学ぶべきものは何かを検討したい。
コロナ禍で行われたことが、おそらくしばらくは続くだろうが、その中で何を批判し、継承してい
くのが問われているように思う。田中論文の提起とあわせて論議したい。

討議:問題意識の共有

A: コロナだけではない。教育の現場複雑だけど 例回の論議を日常的な教育にいかしていきたい。つ
危機がチャンスになるように。コロナ感染不安だが。

- B: コロナ増えて不安 タブレット当たり前、使うのが当たり前 まず使うが前提に現場はなっている。
雪の日外、外で遊んでいたら「学部を超えて遊ぶのはダメ」と言われ違和感を感じた。
- C: 田中論文 ホモサピエンス ハラリの提言 記録として深めたい。
地域の医療実践 記録の意味その意義をおさえたい。 iPad の利用価値 後戻りできない
中で、オンライン全盛、人と会う価値の意味を確かめたい。 ネット通販がはやり 出かけたく
ない現象も危険な感じがする。 発達の再定義が必要ではないか。
- D: 医療従事者の記録 関心を持った。 1年生のコロナの影響をまろにうけている。
対面でない学校生活 かわいそうな感じがする。 教師が肩代わりしている。
- E: 田中論文 コロナをまとめ 記録する意義を再認識した。 滋賀 佐藤実践から 歌えない
子供の姿 今の子供の状況がわかった。 ダンス授業 ダンスする空間 身体表現可能 そ
のプロセスを興味深く読んだ
- F: 歴史学 医療 哲学 田中論文 切り口がわかりやすい
広い視野から学ぼうと思う。 夏川 ハラリー 実践の工夫をみる。 全国各地で実践から学ん
だ。 綴喜の会議で 音楽の時間、ほとんど歌わせなかった 先生のみ独唱の報告を聞いた。
小学校 カウンセリングが増え 今までは少なかったが子供保護者が多い。 負のもの認め
た上で考えていきたい。 京都教育研究 オンラインで行う。参加の呼びかけ。
- G: 1 昨年の6月号 体の特集から 2年後 初期と今はどう違うのか考えていた。
村越報告 ダンスで 身体 学生ガチガチ 緊張の様子よくわかった。 リモートと 本
来 との違い考えさせられた。「臨床の砦」読んでみた。 田中報告 阪神大震災の医者
コロナ報道 湾岸戦争の時の軍事評論家の話 感染症の学者 から聞く 医療 看護を聞
く ハラリーの本など刺激になった。
- H: ハラリー 心に響く言葉があるのか吟味したい。 繋がりを持って生きる意味を考えてみたい。
姉の病院でのことだが、精神が疲弊している。 人間の自由の確保が大切。
姉の手記 日記だが 発達する視点がある。 尊重し笑顔絶やさず 心豊かになってほしい。
姉がそのことをよく書いている 生きる元気を与えるのではないか。日常の 地蔵さん 野
良猫の出会いに喜ぶ 心に響く理念 カントから今も学んでいる。 理念を持って生きる
生活綴方の精神であらためて大事ではないだろうか。
- I: 休校現実となり 子ども 悲鳴のようなものが聴こえてくる。 奈良教育大の発表 入澤報
告から いかにも子どもが傷ついていたか再認識した。子どもの 「死にたいと思った」 絵
本から その心情を知る。教員の無力感もわかる。 指示待ち これでいいのか、コロナ前
から積み重ねてきたものを大事にしたい。 教員の綴りかた 現実を乗り越えていく原動力
アンチテーゼを持ちたい 子どもの学び 進行している今を見る それ以前の問題としてみ
る 語っていく必要性を再認識している。

報告のあとの自由討議から

- J: 今 始まったばかりでなく どう指導書をこなしていくのかが現場の実態。 当たり前のように タブレット どううまく使うかにすぐいく。 今までのスタイルを踏襲しない。 4 観点を 3 観点 知識技能が最優先 決まってるからそれに従うべきになってしまう。 評価はそんなものではないのではないかと。コロナが拍車をかけている。 行事 全て 2 学期に全部位やる、諦めが拍車をかけている。 アイパット使いこなすのが見下している雰囲気がある。 アフターコロナの現実である。
- K: 子どもの声を聞く 大事だが難しい。 授業の中で自分の考えをいう場面が 少ない。 子どもの問題行動など、悪いことだけ聞風く風潮がある。 自由に空間を聞く、難しい。 子どもの実態としてグレーゾーンが半分くらいいる。 どこに実践的補償はあるのか 小学校 受験 欠席する子が増えるのが今の時期。一方で、先生のみ 大変で 倒れるという事例があった。子どもの中には 「芝居と違う」とさめた反応がある。かわりにはいった教務主任が「しんどい 反応しない 無視されてみたい」と嘆いている。 うまく助言できないので悩んでいる。 教室でどう繋げていくのか 歪みが一気にコロナ禍で発生している。 保護者が教師と共感しにくい。個人懇談しないという選択が増えていて、特集から 示唆はあるけど なかなか展望がでない。
- L: 週予定に追われている 教科書に追われているだけでいいのかと自問している。 卒業生にイオンであう 「世界史してないけど話ばかりやったな」と話してくれた。今は子ども達と 雑談がない 生活の日々中から引き出す ゆったりの時間がほしい。 母の認知症が進行する 「父と祖父が被る アルコール依存症 過去の時間はなくなる」母について 怒ってしまう自分がある。母の 主体性大事にしなくてはと思うのだが。
- K: 介護は常に 死ぬイメージがある。 花を見て綺麗 80 歳にして人が好き 残像が残る 無言の哲学 無言の教室の宝が大事ではないか。
- L: マスク生活があいつまで続くのかと思う。 高校教師 楽しかった時をふりかえると、生徒とのたわいのない話が印象に残っている。今、 大学の授業でも学生と 喋る癖があり、カリキュラムでない時間が充実している。そこに 価値があるのでは。 オンライン 少なくなる 記憶の公共性 場所と政治性 仮想空間の場所性とは違。再確認 教育の意味 オンラインの場所性が問われてくると思う。
- M: 大学の授業 オンラインから対面になってきたが 並行して実施すると対面に 戻ってこない学生がいる。 20人くらい教室で 20人 オンラインという割合で実施している。 自分の姿見せない学生がいる。 なんてかなと思うのだが、 自分の表情 気になるのではないかと考えている。

※例会の討論、問題意識の交流はテープおこしという正確なものでないので文章がわかりにくいかと思います。これは吉益の記憶の範囲内のことなのでご容赦ください。

神代健彦編『民主主義の育てかた 現代の理論としての戦後教育学』（2021）（その2）第7章 教育的価値論 ― よい教育ってどんな教育？（神代健彦）

【2回中の1回目】

佐藤 年明

教育は、学校教育は、子どもたちをよりよき方向を目指して育てようとする営みです。ですから本質的に価値的な、価値を志向する人間の営みなのですが、いざ「教育的価値」とは何か？と問われると、自分を取りまく世界に対する理性的な認識や豊かな感情の形成とか、健康な身体の育成とか、下位項目となる価値群は列挙できても、そもそもの概念規定となると私などは考え込んでしまいます。神代論文はその「教育的価値」を考える道筋を仮説的に示してくれています。神代論文の構成は以下の通りです。

はじめに / 1 教育的価値とはなにか 1-1. 経済でも、政治でもなく 1-2. 「なにを・いかに・教えるか」のよさ / 2 理論的な批判に応える―歴史・なかま・批評― 2-1. 歴史的な概念としての教育的価値 2-2. 教育的価値の自覚の条件 / 3 わたしたちの・現在の・教育的価値 3-1. ケアという教育的価値 3-2. 自治という教育的価値 3-3. 能力の承認と自己決定の相克―未決の教育的価値

神代氏は「教育的価値」を「教育という営みにおいて、そのなかでもよい（優れた）と呼ばれうる教育の実践、はたまたそれを支える制度が共通に持つ性質やその度合い」（P.173-174）と規定します。教育の「よさ」は「教育を他の事象から区別する指標」（P.174）です。なるほど。教育という人間の社会的活動について、対立も含んだ様々な価値判断・価値観が関係する営みという中立的な見方をとらず、「よさ」を追求することこそが「教育を他の事象から区別する指標」であり、教育という営みは最初から《よきものを追求し実現しようとする》という価値的選択を前提としていると捉える立場と私は理解しました。

さて、ここから始まる教育的価値、教育の「よさ」に関する神代氏の緻密な論究・考察を丁寧に追跡していきたいのですがそれをしていけるととてもでは紙数が足りず、かつ本連載の神代論文検討部分は次9号（3月初旬頃発行）までに締め括らないと意味がありません。3月例会で神代氏に自著論文についてお話しただくので、事前に私のコメントをみなさんにお届けしたいからです。そこで神代論文の論旨を順に辿ることは断念し、私が神代論文を通読してさらに知りたいと思った論点を2つに絞って、今回と次回に提示します。

◎「わたしたち」という主語の設定について

教育的価値、教育の「よさ」を探求し創造しようとする主体は誰なのかということを考えながら神代論文を読みました。私がまず想定する主体は教師です。数えてみたところ神代論文では「教師（たち）」の語は合計20回登場します。一方で31回登場するのが「わたしたち」という複数形主語です。その登場箇所をいくつか抜粋してみます。

●教育的価値は、わたしたちに、〈人間形成の技の探求という、人類の共同的・歴史的な道行きへの参加〉を呼びかけています。（はじめに P.175）

●わたしたちはしばしば、具体的な文化財を指して、そのものの教育的価値―それが持っている、成長・発達を媒介する性質の度合い―を論じることがあります。（1-2. 「なにを・いかに・教えるか」のよさ P.179）

●わたしたちが何らかの形で「よい教育」を探求している限り、その探求において見出される暫定的な回答は、（中略）むしろ教育と社会の現実そのもの、過酷で残酷な現実を超えようとする現実しのものであるところの、教育的価値なので

す。(2-1. 歴史的な概念としての教育的価値 P.184)

●わたしたちの現在の教育的価値としてケアなるものを提起することは、教育 education という語の古層を歴史的に振り返り、復権させるという側面を持つともいえます。(3-1. ケアという教育的価値 P.191)

さて、この「わたしたち」とは誰でしょうか？ 神代氏が含まれるのは自明ですがそれ以外にどの範囲の人々を包括しているのでしょうか？ 「教育的価値は、わたしたちに、〈人間形成の技の探求という、人類の共同的・歴史的な道行きへの参加〉を呼びかけています。」という文章から人類の壮大な事業に共に参加する「わたしたち」という想定はされているようですが、具体的に教育的価値を構想する主体として常に人間全体を指しているわけではないでしょう。教育に良心的に善意に関わろうとしている人の全体を一般的抽象的に指すのでしょうか？それとも、教師、子ども、親、教育研究者、地域住民……等々の、広範囲ではあるが具体的に特定できる人々を指すのでしょうか？

私個人の考え方としては、「教育的価値」はどのような内容のものであれ、一人ひとりの人間の頭の中に思い浮かび像を結ぶものであり、《わたしたち》という複数形主語の行動により生じるのではないと思います。一人ひとりの具体的人間が「教育的価値」に関する思考が交流した結果多数の人の「教育的価値」に関する合意が形成されることはあり得るし、それを《わたしたちの教育的価値》と呼ぶことも可能でしょうが、その合意のもととなる個人の価値観・価値判断の形成過程・内容は、全く同一になることはあり得ません。それぞれに「教育的価値」を形成していく人々は、環境や人間関係によって異なる価値観形成（やその変化、更新、動揺、自己否定など）を経験するはずで、「教師」「子ども」「親」とそれぞれ一括りにすることも正しくないでしょうが、少なくともそれぞれ立場の違いによって、個人の「教育的価値」に対するアプローチの仕方も異なってくると思います。「教育的価値」の形成とか探求とか変容というのは、そういうもんじゃないでしょうか。

実は私が神代論文の「わたしたち」表記に対して疑問を呈したのはインターネット上で発信した「教育学文献学習ノート(22)-2 神代健彦編『民主主義の育てかた 現代の理論としての戦後教育学』(2021) 第7章 教育的価値論(神代健彦)」(<https://gamlastan2021.blogspot.com/2021/09/422-22021.html>)の中ででした。このブログにはfacebook上からリンクを貼っているのですが、そのfacebook投稿(2021.9.10)に対して神代氏がコメントを投稿して下さいました。そのコメントの関係部分だけを抜粋します(私のfacebook投稿は「公開」設定です、そこへの神代氏のコメントを転載することもお許しいただけるだろうと考えました)。

「これは、勝田守一の教育的価値という概念が、人間(人類)という大きな共同主観性を前提としているということからきています。(中略)こうした共同主観性を置くことの是非というのは、当然あり得ると思います。おっしゃる通り、教育について語る人々はまったくフラットではないわけであって、またそこにはまったく無視できない差異があります。むしろわたしたちが教育論を語るときには、そうした互いの差異に注目して事柄を理解するのが一般的かと思います。その意味では、勝田の教育的価値論は、かなり特殊な構造を持っていると思います。／しかしわたし自身はこれを、特殊ではあるが意義ある思考様式だと思い、それに準拠した叙述をしました。それは、『わたしたちがいま論じているのは、政治でも、経済でもなくて、教育についてなんだよ』という課題の定立の仕方が、互いに異質な他者であるわたしたちがそれでも同じ事柄について深く語ることを可能にすると考えからです。」

上記コメントから、「わたしたち」を主語とする神代氏の行論が「人間（人類）という大きな共同主観性」を前提とする「勝田守一の教育的価値という概念」を基盤とするものであることがわかりました。神代氏が考究しようとする「共同主観性」を措定した上での教育的価値の探求と、教育方法学・教育課程論研究者である私が個人としての教師や親や子どもたちの頭の中での教育的価値の判断について考察しようとしていることとは、レベルの違うことであるようにも思え、一方で神代氏が「互いに異質な他者であるわたしたち」が「同じ事柄について深く語る」と言われることの重要性を考えると、議論のすれ違いとして処理してしまうことは間違いであるとも思います。このことが、3月例会で神代氏により詳しく聞きたいことの第一点です。例会の議論の一つの糸口になればと思います。

教科研ニュース 247 号に教育部会で論議になった議論が紹介されています。教育的価値についての佐貫さんの報告とそれに対する佐藤広美さんの反論が掲載されています。勝田守一の教育的価値の捉え方の違い、恵那の教師の「まじめさ」についての理解の違いが鮮明になっています。方針案論議で話題になっている「子どもと生きる教育実践」についての見解の違いについても言及されています。問題意識として見解深め考えてみたい問題です。

第 12 回関西教育科学研究大会について（案）

昨年の奈良大会で実現できなかった講座の具体化として次のような内容で検討しています。

- ◆ 日時 2022 年 6 月 18 日（土曜日）
- ◆ 場所 奈良教育大学附属小学校（予定）
- ◆ 内容 山崎隆夫さん・平井美津子さんの講演と対談

コーディネーター 鈴木啓史さん（奈良教育大学附属小学校）

○3月集会 3/26 1時から4時 東京家政大学 オンライン開催 パネルディスカッション

◆夏の大会 8/8.9.10 オンライン東京大会 記念講演 岡野八代氏

「若い教師についての語り」とは

佐藤広美（教科研委員長）

吉益敏文さんから「京都教科研ニュースを読んで感想を書いてください」との依頼を受けました。気軽に承諾の返事をしたものの、じっくり目を通す余裕ができなくて、申し訳ありません。一つだけ、京都教科研でも話題になっている「若い教師の悩み」について、書かせていただいてよろしいでしょうか。それに替えさせていただくことで、お許しください。

(1) 思うところがあって、やや古い二つの本を思い出して、それを皆さんに紹介してみたいと感じました。一つは、竹内常一の『若い教師への手紙』（高文研、1983年）です。ほんの少しだけ引用します。

竹内は「あとがき」でのべます。「わたしは1961年から大学で教職課程を教えてきたが、70年代の中頃からそれまでにない困難にぶつかりはじめた。その困難というのは、学生のなかに根づきはじめた教育という営みにたいする不信と絶望を解きほぐすことがむずかしくなったということであった。」

竹内は、学生たちはいざ教師になるというときになって、ひるむことが多かった、自分自身のなかに生きることへの確信も希望もないのに、どうして自分は教師になれるのかと思悩んで、教師になれる機会があるのにそれを放棄する学生もいたといいます。また、対照的に、自分の生きることへの不信と絶望と対決しながら、教師という職業を選んでいった学生もいたとのべています。

教育への不信と絶望。生きることへの確信と希望の喪失。こんな言葉が、すでに、1970年代から使われていたということにあらためて驚きをもちました。そして、この言葉は、今日の若い教師たちの悩みを聞く機会にはあるのだろうか、とも感じました。いまでも、不信と絶望はつづいているのでしょうか。

『若い教師への手紙』の最初は「生徒の悩みを知る」でした。そして、竹内は、教師が悩んでいるとき、生徒はきっとそれ以上に悩んでいるのではないのでしょうか、そうだとすれば、君は自分のなかに閉じこもって悩むのではなく、生徒の悩みのなかで悩むことが必要なのではないのでしょうか、と語っています。教師の最大の悩みの一つは、生徒の悩みを理解することだと、竹内は本書冒頭で言っているのです。

子どもや教師の人間としての危機。教師の子ども理解の重要性。今から40年前、こうした問題は若い教師の中心的な問題になっていたというのが、私のこの本を読んだ感想の一つでした。

おそらく、今日と比べ違うところは、教師が抑圧的な教育政策の下におかれて、とても息苦しい事態にある、ということがやや後景に退いているという印象です。

若い教師の悩みをどのように受けとめ語るのか、40年前と比べ、何が違うのだろうか、やっぱり同じ問題を抱えているのだろうか、そんなことを考えることも、若い教師との対話では必要なのかな、と思いました。

(2) もう一つは、佐藤学の『教師というアポリア』（世織書房、1997年）。こちらも、ほんの短く、「新任教師の世界（その希望と現実）」より紹介します。佐藤学は、新任教師の二つの型を指摘します。

「すばやく学校文化になじみ、所定の職務や技能を体得して、早々と一人前の教師としての社会化を達成するタイプと、試行錯誤で創造的実践に挑戦し、失敗を繰り返しながら、その熟考と反省を通して、ゆるやかに自立を達成していくタイプの二つの成長スタイルである。」

佐藤学は、すぐれた実践を開拓する教師は後者の方だとのべ、なぜなら、初任期に教職の職務や技能に早々と習熟する教師は、教えるという仕事の複雑さを単純化し類型化し手続き化して適応しているのであり、学校の制度的文化を無批判に同化しているにすぎないからである、とのべています。新任教師が過剰に効率の観念に呪縛されて、学校の運営において、企業人のような実直さと頑張りで参加するとき、産業主義のイデオロギーに染められてしまう、という若い教師の悩みの発生要因を指摘しているようでした。若い教師の悩みの根源に、産業主義のイデオロギーの浸透があり、それを受け入れるべきかどうかをめぐる葛藤が悩みの本質だという指摘だったと思います。この点も、重要な問題の提示だと感じました。

若い教師の悩みの根源を、それぞれの生育史に遡って人間の生き方の危機から探る、あるいは、子どもの悩みを自分の悩みに映すようにして子ども理解を行う、さらには、教師としてあろうとすれば、社会を支配する効率概念（市場原理）を拒否せざるを得ない自覚の探求という困難な仕事、なにか、そのような教育学の語りが存在していた、ということであらためて知ったような気がします。

まだまだ、たくさんの若い教師にむけた教育学の語りがあるのだろうと思います。さらに勉強して、みなさんと深めていければいいかなと思っています。

多忙な佐藤委員長から11月例会に関連して寄稿していただきました。ありがとうございました。年始の集中常任委員会の挨拶の中でも紹介されていきました。教師、人間の成長、あゆみとはどのような過程をたどるのか。どんな世界でも即戦力といわれすぐに力を発揮する人もいますが（とりわけ今はその傾向が強いですが）私自身のあゆみをふりかえってみてそうならなかった自分と現場を去る瞬間まで悩んでいた自分の姿を思いだしていました。後悔することは一杯ありますが、ゆっくりジグザグの歩みはそれでよかったのではないかと思います。みなさんはどうですか？

読書・映画・DVD・CD 情報（趣味的ですいません）

① どちらであっても

徳永直 岩波書店

臨床の現場であらう様々な言葉の意味。生きるか死ぬか 流行と不流行 地域医療に携わる
医師の眼は鋭く、言葉も深い。

② 教師をやめる

前屋毅 学事出版

教師をやめた 14 人の語りはどれもが納得する。教師を続けたとしても紙一重で同じ思いを共有
する。現場の生々しい実態から何が出来るか考えてみたい。やめた人の人生を尊重しながら。

③ 寒月に立つ（風の市兵衛シリーズ 29）

辻堂魁 祥伝社文庫

読みだしたらやめられなくてシリーズを読んでいる。図書館で予約すると最近、激戦で長い予約
待ち。同じ思いの人がいると思うとまた楽しくなってくる。待つのも喜びに？

おいしゃせんせい

2015 日本映画 監督 永江二郎

昭和初期 山形で仙境のナイチンゲールといわれた志田周子の物語。無医村に診療所をたちあげ
村の人たちに反発されながらも粘り強く医療活動に従事した実在の人物を映画化。平山あやが
主人公を熱演。別件で東京の岩波ホールが閉館されるとか。寂しい限り。

編集後記・よもやま話

※コロナ禍第 6 波が予想通り広がっている。オミクロン株の感染が猛威をふるっている。

政府の対応は同じように後手にまわっている。しかし反省しない。予期せぬことがコ
ロナ対応として迫られるが、「聞く耳」をもって瞬時の科学的判断をとぎすましてほしい。
例会ではこうした中で何が出来るか、何を大切にするかが論議になった。

※沖縄の名護の選挙の結果をみて、基地には反対だがどうしようもない「無力感」から現
実的選択をせざるをえない市民の苦悩、苦渋の選択がかいまみえる。権力の「あきらめ
させる」巧妙な手口に「あきらめないで」したたかに対応したい。

※相撲で御嶽海が大関に。大関になるまでは勢いがあっても大関になると下降線をたどる
人が多いのでさらに上をめざしてもらいたい。それにしても土俵下の安全対策を力士の
体を守る上からももっと改善できないものかと思ってしまう。

※通信の発送作業を簡略化するため基本は郵送の方と希望の方のみに送信・発送します。
京都教科研 HP にはりつけますのでそでご覧ください。郵送希望の方は 1000 円か
ら 2000 円のカンパ、もしくは切手大歓迎です。よろしくお願ひします。